



杉並区子どもたちの権利条例を 考えるワークショップ

in 文化学園大学杉並中学・高等学校

主催：杉並区子どもたちの権利擁護に関する審議会
協力：NPO法人みんなの進路委員会
文化学園大学杉並中学・高等学校

当日の概要

日時：2024年3月11日（月）13:00-16:00

場所：文化学園大学杉並中学・高等学校

参加者：

- 総計 27名
- 学年 中1/1名、中2/1名、中3/3名、
高1/10名、高2/10名、高3/2名
- 学校 文化学園大学杉並/25名、
杉並学院/1名、富士見丘/1名



13:00-13:10 オープニング

13:10-13:20 参加者自己紹介

13:20-13:30 まちカタルカを使ってトーク

13:30-13:45 イントロダクション「子どもの権利とは」

13:45-14:00 テーマ①子どもって誰だろう

14:00-14:30 テーマ②子どもの権利って何がある？

14:30-15:00 テーマ③大人の役割って何だろう？

15:00-15:30 テーマ④どんな仕組み・制度が必要かな？

15:30-15:50 中高生からの提言

15:50-16:00 クロージング

当日の流れ/オープニング～まちカタルカ



A4白紙に4枠を作り「呼ばれたい名前」「学校・学年」「部活・趣味」「参加してみた理由」でグループごとに自己紹介

「まちカタルカ」というカードを使って、出てきたお題（例：まちの好きな道、親子で遊ぶ場所など）についてグループで語り、これから議論する杉並区という地域について考える頭の準備体操



当日の流れ/子どもの権利とは？～テーマ①

資料3 別紙



谷村より、子どもの権利とは何か、歴史的経緯を交えて説明。さらに、杉並区のこれまでの取り組み（審議会の議論・子どもたちへの意見聴取）もご紹介

最初に「子どもって誰だろう」というテーマについて議論。年齢や居住エリアなどについて意見が出た。オンライン付箋システムを活用し、各グループでの議論が全体投影される形式で実施



当日の流れ/テーマ②子どもの権利って何がある

資料3 別紙



ユニセフの国連子どもの権利条約資料を参考にしながら、個人ワークで考えた「こんな子どもの権利が大切では？」を付箋に書き、グループでそれぞれシェア

各自考えた大切だと思う子どもの権利を模造紙にまとめ、グループピング



当日の流れ/テーマ③大人の役割って何だろう？

資料3 別紙



そもそもどんな属性の大人がいるか？を最初に考え、「先生」「親」「政治家」など様々な大人の属性が出た。その上で、それぞれの属性の大人に言いたいこと、それぞれの属性大人が子どもの権利を守るためにどんな役割があるかを考えた

テーマ②とテーマ③で作った模造紙をそれぞれ見比べて、ブラッシュアップ



当日の流れ/中高生からの提言



テーマ④で作成した模造紙をベースに、提言書を各グループが作成

各グループがプレゼン形式で提言内容を発表



A班「偏った思想に染められない権利」

(願い) みんなが認められる世界、周りの目を気にせず自由に物事を考えれる、縛られない、思想教育による将来の選択肢を少なくさせられない

(背景) 親や先生の影響力が大きすぎる、気づかないうちに思想教育をされている、閉ざされたコミュニティ

(理想) みんなが認められる世界、第三者による授業、教師または親はすべてではないという教育

B班「意見を尊重される権利」

(願い) 子どもが大人と対等に接したい、先生にはなかなか本音と言えない

(背景) 生徒総会で、生徒の意見が否決された理由を説明してくれない、もしくはその理由に納得ができない

(理想) 先生に本音で意見を言える場所（意見をきちんと聞いてもらえて、納得のいく話し合いができる）を作る

C班「意見を表明する権利」

(願い) 今回の提案に対してどのような対応をしたのか報告してほしい、子どもの権利について多くの人に知ってほしい、子どもの意見が表明できる場をもっと作ってほしい、一緒に取り組める場が必要

(背景) 大人の意見と同等に子どもの意見は扱われていない、意思表示の方法がわからない、子どもの意見を安心して表明できる場が十分でない、意見の行方がわからない

(理想) お互いを知る、透明性を確保する、大人と子どもの意見が同じように尊重される、子ども大人関係なく、どちらかわからない状態で会議をする

D班「選択・判断する権利」

(願い) 選択・判断する権利

(背景) その人の選択を無視したらその人の存在を否定することになってしまう、同調圧力によって自分の立場で言えなくなってしまうことがある

(理想) 選択・判断を尊重した上で意見を述べる、その人がいきいきと人間らしく生きられるように、大人の人も子どもの判断・選択を支える

E班

(願い) 意思表示がしやすい環境 (怒られない、理不尽に否定されないなど)

(背景) 勝手に決められた予定・ルール・期限に対して断りにくい (ランドセルの色、校則、門限、提出期限が相談しづらいなど)

(理想) 否定されない・意思を尊重される権利、気軽に話せる環境 (大人と子どもが話す環境を設ける、政治家に意見を言う、近所の人に相談する、期限やルールを決める際はアンケートを実施する)

F班「学ぶ権利/教育を選択する権利」

(願い) 平等な学ぶ権利と、教育を選択する権利

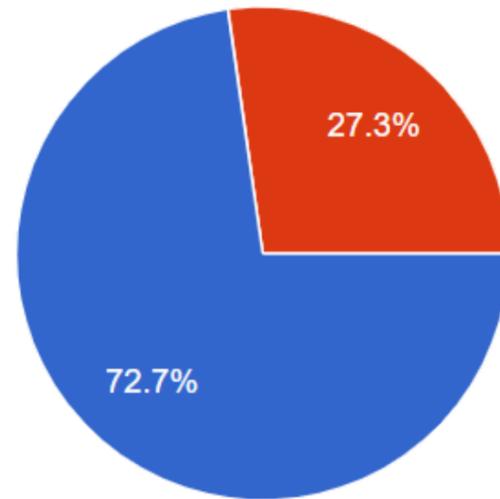
(背景) 押し付け進路指導、出席日数のプレッシャー、経済的な問題、忙しすぎる・時間がない、あいまいな情報、選択科目の強制

(理想) 選択科目の完全自由化、金銭面での問題解消、正しい情報の開示 (高校生の留学を無償化、誰もが留学できる権利、高校生コミュニティの作成)

子どもの権利について、今回のワークショップを通してより知ることができた



22件の回答

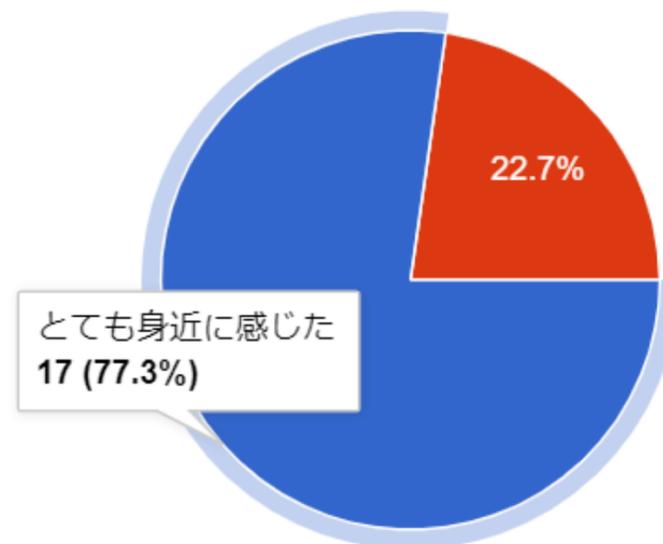


- とても知ることができた
- 少し知ることができた
- あまり知ることができなかった
- 全て知っていることだった

子どもの権利について身近に感じましたか



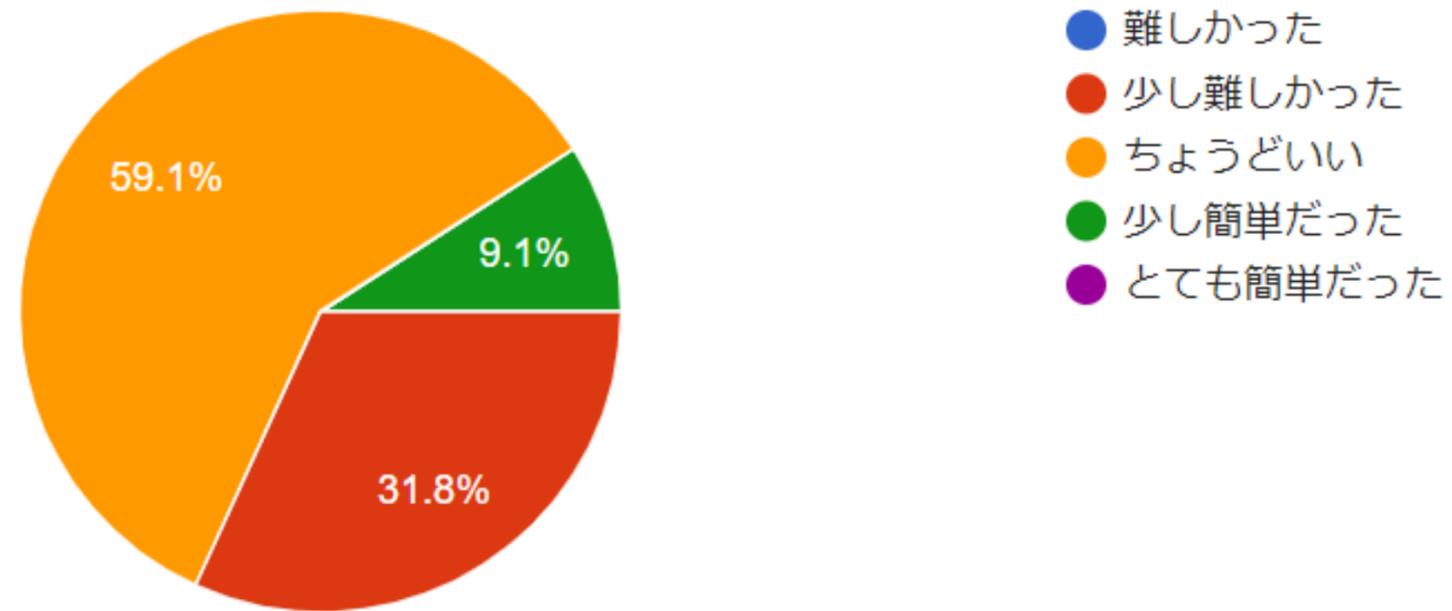
22件の回答



- とても身近に感じた
- 少し身近に感じた
- あまり身近に感じなかった
- まったく身近には感じなかった

今回のワークショップの難易度はいかがでしたか？

22件の回答



『これからも、今回の「子どもの権利」や「杉並区子どもの権利条例」について
考える機会を希望されますか？』

→全回答者22名中13名が、継続開催や情報提供を希望

アンケート結果

ワークショップの流れが面白かった
明確な指示と、それに沿って個人で意見を出して、みんなの意見を知りまとめていくのが、自分の意見が反映されていく感覚があり、価値のあるものだなと思えた

自分達の意見が区に採用されるかもしれないという貴重な経験ができてとても良かったです。
ワークショップの方達も優しく最初は緊張していたけど楽しみながら話すことが出来ました!!またやりたいなと思いました。

楽しかったです!!

今回の体験を通して子供の権利、思いを知れてよい体験になった。

こういう機会が設けられることによってより良い社会を気づきあげることができると実感できた

条例そのものにとっても真摯に向き合うことの出来るステップの企画だと感じました。

ファシリテーターの方がアドバイスなどをくれたおかげで円滑の進みました。

権利条約についてまだ学校で教わっていなかったので少し難しかったです。
授業で教わってからもう一度考えてみたいです。

知らないこととか沢山学べたしほんとに貴重な体験ができて楽しかったです!

これまで子どもの権利について知る機会がなく、今回扱われた内容は知らないことだらけだったけれど、それらの権利について知ることは子どもの権利だと思った。加えて、同世代の人たちがどういう風を感じているのかも知ることができてとても良い機会になった。

とても楽しく、良い経験になりました。ありがとうございました。

子供の権利についてのワークショップでは、説明ややり方がわかりやすく、とてもためになりました。ありがとうございます。

子どもの権利に関するだけでなく、子どもの日々の生活についての意見（児童館を増やしてほしいなど）を聞くワークショップがあってもいいかもしれません。